

【中谷技術開発本部長に聞く】 社会課題の解決に向けた 技術開発の取組み

技術開発の方針について教えてください

当社グループは目指す将来像を“つぎの社会へ、信頼のこたえを”という「グループビジョン2030」として制定し、刻々と変わる社会に、革新的なソリューションをタイムリーに提供し続けていこうとしています。このビジョンの下、さまざまな社会課題の解決をテーマに、市場開発やサービスビジネスなど付加価値の高い領域への事業伸展のための技術開発に積極的に取り組んでいます。

技術開発本部の役割について教えてください

技術開発本部は、本社の研究開発部門として事業部門と一体となり製品やサービスの開発を進めています。技術開発本部のスペシャリストが事業部門の技術者と構想段階から協業して、複数の要因が関係し合う課題の全体最適化を図ります。このマトリクス運営により、過去のプロジェクトの知見を別のプロジェクトに生かすことができ、ガスタービン技術を融合したモータサイクルなど事業の垣根を越えた総合重工業メーカーとしてのシナジー効果を発揮しています。

さらに、事業部門の少し先の未来を構想し社会の課題を解決する製品やサービスを提案して、「これから」を担う技術を生み出すことにも取り組んでいます。

将来に向けた注目分野はどこでしょうか

少子高齢化や労働人口の減少といった社会課題に向けたビジネスチャンスとして、ロボットビジネスにおける新分野の市場開発に着目しています。高齢化社会では、高度な医療を多くの患者に提供するため医療用ロボットを他社と協業して開発し社会的な要請に応じていきます。また、人との協働作業を可能としたロボットである「duAro」や人間の技能を学習し再現する「Successor」など、幅広い分野でのロボットの利活用を可能とする技術開発を行うことで労働人口の減少に対応しています。



中谷 浩 取締役常務執行役員
技術開発本部長

また、サービスビジネスに向けた取組みとして、運用やメンテナンスなどを効率化して付加価値を高めるサービスを提供しようとしています。事業化開発を進めている鉄道軌道の遠隔監視サービスやガスタービン・ガスエンジンの遠隔監視システムはこういった取組みの例であり、ハードウェアの知見とデジタル技術を組み合わせることで人手不足や環境問題などの課題解決につなげていきます。

さらに、将来の地球温暖化や資源枯渇という二つの社会課題を解決するための水素社会の実現に向けた取組みも新たなビジネスチャンスと捉え強力で推し進めています。

水素社会の実現に向けた取組みについて教えてください

水素を液化して大量輸送を可能とする当社保有の極低温技術を活用し、10年ほど前から他社に先駆けて水素社会の実現に向けた取組みを始めました。具体的には、水素サプライチェーンの「つくる」、「はこぶ」、「ためる」、「つかう」にわたる各分野の技術や製品の開発を進めてきました。水素社会の実現にはそれらに加え、水素をだれもが広く使うことができる環境も必要です。これには、水素を扱うための規格やルールを整備することが重要であり、当社はトップランナーとしてこの策定に関与しています。ルールが整備されることで、世界的に水素が使いやすくなるとともに、当社が手掛ける製品・サービスが世の中に広まるきっかけや市場が生まれると考えています。

最後に

社会課題の解決を目指した各種の技術開発の取組みは、当社の持続可能な経営に貢献する事業へと成長していくと考えており、今後も全力で取り組んでいきます。